

第七十三回 卒業式 式辞

今年は暖冬で、痺れるような厳しい寒さがないまま冬を越しましたが、本当の厳しさは春にやってきました。新型コロナウイルス肺炎の影響で、私たちの今年度の教育活動は、突然強制終了せざるを得ない状況になってしまいました。

しかし、このような状況でも、こうして卒業式を挙行できることに、心から幸せを感じています。

草平小学校を巣立ちゆく五十八名の六年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

四月から中学生となるみなさんに、私から三つのことについてお話をしたいと思います。一つ目は、『自分で考え、判断し、行動でき

る人になって欲しい』ということです。

みなさんの人生は、誰のものでもない自分の人生です。これから先、「部活動は何にするのか」「学級の係はどれを担当するのか」「どんな進路に進むか」など、様々な場面で考え、判断し、行動する。その繰り返しが続いていき、その積み重ねが人生になります。その時に、「友達が一緒だから」「親に勧められたから」という理由で判断していれば、きつとうまくいかなかったときに人のせいにしたり、言い訳をしたりすると思います。でも、いくら人のせいにしたり、言い訳をしたりしてもその結果は自分自身の人生に影響するのです。だから、「自分のために」、悩み、考えて、判断することが大切なのです。それができたら、例えば失敗しても、「自分で決めたことだから」と反省し、もう一度考え直し、切り替えて、前に進むことができるでしょう。みなさんには、『自分で考え、判断し、行動する』姿勢を

常に忘れずにがんばってほしいと思います。

二つ目は、『与えられた環境の中で、工夫する力・創造する力を身に付けてほしい』ということです。

少し前に、今後十年で無くなる職業ランキングが発表されました。それは、今ある職業が、AI（人工知能）に取って代わられるということです。例えば、電車やタクシーの運転手、建設現場や工場の従業員、宅配業者、スーパーのレジ係、データ処理などの事務職員などがそうです。逆に残る職業は、会社の社長や役員などの「重要な意思決定をする仕事」や技術開発やコンサルティングなど「新たな戦略を考える仕事」、教育や医療、音楽、お笑いなどの「人の情緒や感情に関する仕事」だそうです。また、今は名前もない未知の職業が登場することでしょう。

みなさんが将来生きていく社会は、今とは

全く違ったものになっていることでしょう。
そのような状況の中で生き抜くために大切な
のは、与えられた環境の中で、自分で工夫す
る力、新しいことを作り出す創造する力だと
思います。

人に与えられるのを待っているのではなく、
自分で新たな道を切り開くたくましさを持っ
てほしいと願います。

そして最後は、『周りへの感謝の気持ちを忘
れない』ことです。人は一人で生きていくこ
とはできません。みなさんは、生まれてから
今日まで、お母さんやお父さんはもちろん、
家族、先生、友達などたくさんの人の支えが
あって今ここにいます。

また、日頃の生活の中で、たくさんの人か
ら優しさや愛情をもらっています。それらの
ことに、素直に「ありがとう」という感謝の
気持ちを持てるということは、人として一番

大切なことだと思います。

今日卒業式が終わったら、まず担任の先生に、家族に感謝の気持ちを伝えましょう。

そしてこれからの中学校生活を送る中で、周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、しっかりと前を向いて進んでほしいと願っています。

保護者の皆さま、本日はお子様のご卒業誠におめでとうございます。(一礼)

来賓も在校生もいないという、未だかつて経験したことのない状況での卒業式となり、私たち職員も「このような状況の中で、どんな風にしたら、子どもたちを温かく見送ることができるのか」をみんなで知恵を出し合って今日を迎えました。

しかし、卒業証書を受け取る子どもたちの表情からは、中学校生活への第一歩を踏み出そうとする強い気持ちが伝わってきて、安心

しました。その証書を受け取られたお気持ちはいかがでしたでしょうか。これまでの六年間の小学校生活の思い出が走馬灯のように巡ってきたことと思います。

これまで、六年間に渡り、本校の教育に対してご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

卒業生のみなさん、この歴史ある草平小学校で過ごした六年間を誇りに、胸を張り、背筋を伸ばして、自分らしい人生を創り出しましょう。皆さんの未来が希望に満ちたものになることを心からお祈りし、私の式辞といたします。

令和二年三月十九日

愛西市立草平小学校長

小 島 美 保